

NEXT

55



みんなの力で、みんなの幸せを

SAWARABI

さわらび

- 1 表紙 陶芸教室～障害福祉サービス事業所 明日香～
- 2 医学講話 新型コロナウイルス感染症の臨床(その三)
◆福祉村病院 院長 小橋 修
- 6 特集 コロナ禍における災害対策

2022
vol.593

9



医学講話

福祉村病院院長

小橋 修



新型コロナウイルス感染症の臨床(その三)

(1) 無症状で感染拡大を続ける オミクロン株の脅威

オミクロン株に感染しても無症状で、感染拡大を続ける状況では、何らかの症状のあるものだけにPCR検査を行う体制では、感染拡大を抑えることはできない。コロナPCR陽性者のうち、およそ48%の人は無症状であることなどから、高齢者を預かる高齢者施設や、慢性期医療病棟での感染拡大を抑えることはできない。特に感染力の強いオミクロン株の流行期においては、15歳以下の無症状感染者による家庭内感染は、両親の務める会社や、医療従事者が、気付かないうちに職場での感染を広げてしまう大きな要因となっている。このことを反映し

て、日本各地で、院内感染や老人施設内感染が報告されている。この感染経路を断ち切るには、この世代の人たちのワクチン接種率をあげることが急務である。ワクチン接種の対象者をCOVID-19の症状の条件に合う人だけに注目すると、症状がほとんどない人や無症状者を見逃してしまうと言

う事実が日本をはじめ先進国で報告されている。幸い65才以上の高齢者での3回から4回のワクチン接種が進んでいることから、感染後の重症化が予防されていることは不幸中の幸いであるが、高齢者特有の問題として、半数以上の人は生活習慣病を持ち、なんらかの治療を受けていて、この年齢層の人たちが新型コロナウイルスに感染すると、症状は軽くても、合併症の悪

化を招き、緊急入院が増えることと、入院できても持病の難治化や重症化から死亡に至る例が増えていることも忘れてはならない。新型コロナウイルス感染症対策アドバイザーボードの報告から、オミクロン株の新しい変異株B.1.1.529が、8月初旬には第七波のピークを迎えるとの予想から、政府は、医療従事者や高齢者施設の従業者、約800万人に4回目のワクチン接種を進めることを表明した(2022.7.14)。大阪府では、高齢者施設での面会自粛を要請した(2022.7.11)。

(2) オミクロン株のB.1.1.529 B.1.1.529変異が急拡大の理由?

過去に感染した人だけでなく3回目のワクチン接種を受けた人の持つ抗体をすり抜ける能力が高い(2022.6.17, Nature)。ウイルス学者佐藤佳氏は、L452R変異が関係していることを示唆している(Cell Host & Microbe 2021.6, bioRxiv 2022.5.26)。

(3) コロナ重症化の背景には 抗I型IFN抗体が関与か?

従来よりコロナウイルス感染者の重症化のリスク因子は、①65歳以上、

②慢性腎症(CKD)、③免疫抑制剤、④COPD、であると報告されている。ウイルス感染後の生体の抗ウイルス反応を担うI型IFN(インターフェロン)に対する自己抗体(抗I型IFN抗体)の保有率調査から、重症症例の14%や死亡例の19%であるのに対して、健康人では、70歳未満で0.18%、70~79才で1.1%、80才以上で3.4%であったことから、抗I型IFN抗体が重症化の要因ではないかと説明されている(自己免疫抗体産生の機序は不明)。

(4) 新型コロナウイルスの驚きの変異のスピード

新型コロナウイルスの変異のスピードは、専門家の間においても脅威的と判断されている。2019年中国武漢での武漢株の感染拡大に始まり、2020年にはイタリアに波及し、イギリスでのアルファ株のパンデミックの流行、さらにベータ株、そして2021年には感染力の強い変異株・デルタ株による世界中の大流行に続いて、2022年1月には感染力がさらに増したオミクロン株の大流行、こうした中でウイルスの遺伝子解析を持続

して研究していた南アフリカでは、オミクロン株B.1.1.529の発見と、とくにB.1.1.529株の流行、同じインドではさらに増加のスピードの早いB.1.1.529株が出現した。このようにして、新型コロナウイルス感染が感染拡大を繰り返していく中で、ウイルスの変異がどんどん進化して人類に襲い掛かっている。ウイルス変異の状況と感染拡大の状況から、これまでの武漢株に対するワクチンのみでは十分な感染防御ができないことが証明され、新しい株に対する有効な、新しいワクチンの開発が急務となっている。ワクチンによって獲得した免疫の低下やマスクをつける頻度の減少などがウイルス蔓延が続く大きな下地なので、ワクチンの改良とそれに加えてソーシャルディスタンスを保つ、混雑した屋内を避ける、適宜換気をすすめる、マスクをするなどの予防策が大変効果的である。

(5) 多臓器障害(肺、心臓、脳、肝臓、腎臓、血管、妊婦への影響などの感染後症候群と後遺症 (LONG COVID))

コロナウイルスに感染した人たちの中には、感染による軽症、重症に関わらず、長く残る後遺症(Long Covid)

が問題となっている。上気道や肺胞に感染した後、増殖したウイルスが血管内皮細胞を始め、多臓器の細胞に感染し、増殖を繰り返す。通常は、感染後2~3週間後には、生体には強い免疫応答が起こって、体内からウイルスを排除し、病気が回復します。しかし免疫不全やその他の理由でウイルスの増殖が止まらず、各臓器の障害をもたらして、長く続く後遺症をきたす例が増えている。後遺症を示す人では、ウイルス感染によって免疫ができた後に、各臓器に残っているウイルスやその破片に対して炎症反応が繰り返されるのが原因で、炎症反応が長引いていると説明されている。「ブレインフォグ」と呼ばれている後遺症では、うつ病、集中力障害、疲れやすさなどによって、仕事に支障をきたし、休職や退職を余儀なくされる人たちが出ている。これらの後遺症を予防するには、感染しないようにワクチン接種と、普段からの感染防止策を日常的に行うことです。

LONG COVIDの定義は、新型コロナウイルス発症から通常三ヶ月以内に出て、少なくとも2ヶ月以上続く症状は倦怠感、息切れ、記憶障害、集中力の低下、嗅

覚味覚の障害など。

コロナ後遺症が長引くのはなぜ?

- ① 初期症状後、体に残ったウイルスや、破片が長期にわたって炎症を起すから。
- ② 免疫が自分の体を守るのではなくて攻撃するから(自己免疫反応)。
- ③ 感染でダメージを受けた臓器の修復が長引いているから。
- ④ 以前から体内に存在するウイルス(ヘルペスウイルスなど)が再活性化するからなどが有力な仮説とされている。

(6) まとめと課題

- 1. 症状があるかないかに関係なく、感染流行期には、医療従事者全員を対象に、できれば毎週PCR検査または抗原検査を頻繁に行うことで、人から人への感染を20%前後減らせる可能性がある。
- 2. 地域社会全体における感染者の存在を知るためには、コロナウイルスに対する抗体検査を、感染流行の初期から始めて、いくつかの時期で実施すること。これによって、現在どのような人がすでに感染しているの

か、その分布がどうか、どのような集団に感染者が多いのかなど、結果によって、どのように感染が広がっているのかを知るための重要な統計分析ができる。

3. 検査によるウイルス陰性化の評価。

- ① 口腔スワブ陰性でも肛門スワブ、血液陽性例が存在する。
- ② 2回の口腔スワブPCR陰性の退院基準は誤り。血清抗体検査が実用化されれば、疫学調査にはPCR検査は不向きであり、必然的に血清検査に置き換わる。
- ③ 2回のPCRスワブ陰性は、ウイルスの非存在証明にはならない。
- ④ 医療において大事なのは「ウイルス」の証明よりも、ウイルス感染によってもたらされる疾患マネジメントであり、病に苦しむ患者を治療に導くことが主要目的である。

4. コロナウイルスの最後の砦…高齢者の多くいる諸施設、介護医療や、慢性期介護医療病院は、感染の最後の砦であるので、これらの施設や病院における感染拡大には万全の注意がこれまで以上に必要です。沖縄では病院ひっ迫が始まっている(2022.7.19)。

さわらびグループ60周年記念式典



8月20日穂の国劇場PLAT大ホールにてさわらびグループ60周年記念式典が執り行われました。

大村秀章愛知県知事、浅井豊橋市長・竹本豊川市長・山下田原市長などの祝辞、麻生太郎自民党副総裁などの祝電をいただきました。

記念式典コンサートでは弦楽五重奏と各演奏家の演奏が行われました。

(谷)



ヴァイオリン ● 上里 はな子 / ビルマン 聡平
 ピオラ ● 島田 玲 チェロ ● 高木 慶太
 ピアノ ● 桑生 美千佳



▲60周年記念実行委員

研究通信

news of study
Vol. 173

福祉村病院神経病理研究所 所長

橋詰 良夫

癌と認知症

はじめに

癌は二人に一人がかかるといわれるほど発症リスクの高い病気で、高齢になるほど発症する人が増加します。一方、認知症も高齢者で発症リスクが高い疾患です。そのため、高齢者の中には、認知症と癌を同時に発症する方も少なくありません。当院の入院患者さんの中にも両方の疾患をもつ方がたくさんあり、その診断、治療、療養に困難を伴うことが増えております。癌が認知機能に影響を与えるという面と、認知症が癌治療に影響を与えるという双方の視点からこの問題を考える必要があります。

◆癌による認知機能障害

癌患者に認められる認知機能障害を総称して“cancer related cognitive impairment (CRCI)”と呼ばれます。近年このCRCIについては精神腫瘍学の分野で注目されています。癌による認知機能障害は、その原因は多種多様で、①直接的な転移性脳腫瘍や髄膜癌腫によるもの、②治療として行われる化学療法、放射線療法、ホルモン療法による副作用、③合併する貧血、低栄養や代謝障害によるもの、④アルツハイマー病などの認知症疾患の合併、などを考慮する必要があります。さらに腫瘍細胞による炎症性サイトカインの増加と制御、ホルモンの変化、神経伝達物質の制御異常、酸化ストレスなど認知機能に影響を与える生物学的課題も多くあります。図に転移性脳腫瘍（原発は肺癌）に、変性型認知症を合併した患者さんの脳CTを示します。一方、逆に癌を持つ患者はアルツハイマー病（AD）にかかりにくいというデータもあります。多くの癌に

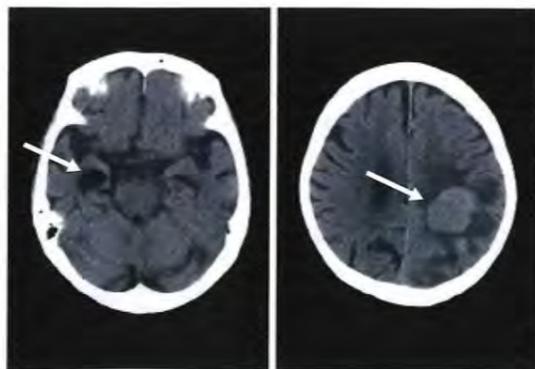
おいて、癌の発症者はADリスクが有意に低く、癌を促進させる遺伝子および分子経路は、一方で神経保護の効果があるのかもしれないという研究もあり今後の発展が期待されます。

◆認知症による癌治療への影響

認知症患者は自分の健康管理が来ず、自分の症状をうまく表現できない、苦痛を訴えるのが苦手で、癌の精査を拒否し、診断が遅れることが多く、発見した時には進行癌であることも多い。認知症の場合、癌治療において、治療を受ける意思の有無の確認、治療方針の選択や決定、療養場所の選定といった場合に、本人の意思決定能力が不十分であり、適切な対応ができないことが問題となります。実際の現場では、発熱や痛みなどを訴えられない、処方薬を適切に服薬できない、点滴を嫌がって抜いてしまう、入院中に大声・徘徊などの問題行動が起こるなどがあり、癌の末期患者の緩和医療も困難となることも多い。

◆おわりに

以上のように、高齢者では癌と認知症は互いに重なり合う疾患だと考えて、個別に対応するのではなく、総合的にどう対応するかという視点が重要と考えられます。当院でも癌をもった認知症患者の緩和医療をどのようにしてゆくか、対応が求められると思います。神経病理研究所では病理解剖で得られる資料の蓄積により、どのような癌（原発部位、組織型）がどのような種類の認知症の発症や症状に影響を与えるのか、相互の関係性について研究を進めて行きます。



(図) 脳CT: 右は肺癌の左頭頂葉への脳転移、左は辺縁系の萎縮を示す。

特集

コロナ禍における災害対策

さわらび会では、コロナ禍に災害が起きてしまったことを想定し対策を行っています。

医療法人さわらび会

はじめに

近い将来に高確率で発生すると言われている南海トラフ地震を始め、年々勢いを増している台風や豪雨、土砂災害等の被害に加え、昨今では災害時における新型コロナウイルスなどの感染症の感染拡大防止にも備えなければなりません。当法人は、豊橋市地域における介護医療を担う役割を踏まえ、災害時においても感染拡大防止を徹底し、安全に業務を継続できるように努めております。

- ① 組織体制の整備
 - ② 備蓄の確保
 - ③ 行政機関との連携
- 3つあり、
- 感染症対策を踏まえた災害時対応のポイントは
- ① 組織体制の整備
- ② 備蓄の確保
- ③ 行政機関との連携
- が重要となります。

特別養護老人ホームさわらび荘

さわらび荘の立地条件から、豪雨等に伴う土砂災害、浸水等の心配はないため避難をする必要はありませんが、一昨年6月に防災備蓄品の保管場所を浸水の心配がある地下倉庫から、1階倉庫などに移動しました。

今後さわらび荘で備えを重点的に行う必要があるのは、火災や地震の発生、台風や豪雨による長期間の停電等になります。

火災発生の訓練については、今年度すでに2回、夜間に火災が発生した想定での初期消火訓練、避難訓練を行いました。夜間帯の限られた職員で様々な対応が必要であることから、絶対に火災を発生させない取り組みが重要なることを再認識いたしました。

また、停電時の対応として発電機の取り扱い訓練を行っています。併せて停電により何が困るかを検討し、対策を準備しています。特にエレベーターが使用できないことは、食品の運搬からゴミ出しまで、様々な不都合が生じ、特にゴミ出しに関しては感染症の観点からも重要になります。

更に、近年の新型コロナウイルス感染症の流行によ

① 組織体制の整備

当法人では、院内における感染症拡大を防止し、患者様・利用者様及び職員の安全を守る「感染症対策委員会」と、防災対策に万全を期するために「防災委員会」を整備しております。また、災害時における指揮系統や役割を想定した「災害対策本部体制」も整備しております。

② 備蓄の確保

災害発生時には、施設・設備等、社会インフラが災害被害による影響でストップしてしまう恐れがあり、行政支援開始の目安である被災後3日目まで自力で業務継続するための備蓄が必要とされています。当法人では福祉村敷地内に備蓄食と備蓄水に加え、マスク等の感染症対策用品及び携帯簡易トイレなどの衛生用品の備蓄を目的とした「防災倉庫」を設置しております。

り、災害時の備えと並行して感染症対策の徹底も必要となります。

防災備蓄品にも、従来の非常食や非常用の紙皿、毛布、以外にもマスク、ガウンなどの感染症対策物品の準備を進めています。

災害や災害時の感染症など、発生しないことに越したことはありませんが、いざという時に日頃から備え、準備を怠らないようにしてまいります。



③ 行政機関との連携

市町村・保健所・医療機関・消防署等との連携強化と情報共有を目的とした広域災害救急医療情報システム「EMIS」、病院の稼働状況や医療資材の確保状況などを把握支援を目的とした医療機関等情報支援システム「GMIS」を活用することが重要です。EMISでは病院の被災状況や稼働可能な職員の報告・確認を可能とし、GMISでは薬剤やマスクなどの感染症対策用品の支給要請を行うことも可能です。



▲防災倉庫

特別養護老人ホーム 第二さわらび荘

地震等の災害が起きた際、第二さわらび荘は施設自体が避難先となります。緊急時は停電が起これば、物資が一時的に届かなくなったりする可能性もあるため、保存食や水、懐中電灯など様々な対策物資を用意してあります。また、高齢者は新型コロナウイルスの感染リスクが高く、普段から感染対策を実施していることもあり、マスクやアルコール、使い捨てガウン、フェイスシールド、パーティションなどの感染対策用品は余裕をもって貯蔵しています。急な被災があつたとしても十分に対応できるだけの数が常に用意してありますので、災害時にもそれらを用いて感染対策をしっかりと行いながらの対応を想定しています。

一方、第二さわらび荘は豊橋市との契約にて福祉避難所として登録されており、1階のふれあいホールは一般の方が避難先として使用される可能性があります。ホールはある程度の収容人数がありますが、感染対策を実施しての受け入れとなると普段より広めのスペース確保が必須となり、どうしても受け入れできる人数は少なくなってしまう。また利用者様や避難者を守るため、受け入れ時に

抗原検査等を実施して陰性が確認できてからの受け入れとなる可能性もあるなど、平常時より制限がかかることがどうしても多くなってしまうと思われれます。

感染対策だけでも大変な問題ですが、災害が起これば両方を同時に対応しなければならなくなり、対応はさらに困難になります。その中でもできうる限りの対応ができるよう準備を進めていきます。

(塩見)



▲感染対策用品の備蓄

軽費老人ホーム 若菜荘

若菜荘では年に3回の避難訓練を行っております。

また、あかね荘ではマスクをつけることができない利用者様が多くいらっしゃいます。そのような利用者様は、自ら感染防御ができません。しかし、避難場所では、マスクをしていない状態で密になってしまいうことが想定されます。そこで、避難場所を男女別にするなど、なるべく密を避ける対策を取っております。

そういった状況でも、少なくとも職員からの感染がないようにする必要があります。そのため、感染症対策の職場研修を定期的に行っています。そのことで職員の意識を高めて、災害時でもしっかりとした感染症対策を行っていきます。

(杉山)



▲避難訓練

すが、新型コロナウイルス感染症の発生以降は、毎回の避難訓練時には入居者の皆様にマスク着用の徹底を働きかけており、うっかり忘れてしまった方には入居者様同士で声掛けをしており、感染症対策の面でも入居者様自身が助け合って避難を行う事ができるように訓練を重ねております。

施設内の避難集合場所の選定も密集を避けて集まることができるよう計画し、水害や火災、地震などコロナ禍での様々な災害を想定した訓練を実施しております。

また、消毒や手袋、体温計などの避難先で使用することが想定される物品の持ち出しについても、戸惑うことなく速やかに準備ができるよう、職員同士で意見を交わし、より実効性のある準備ができるように検討を行っております。

そして、若菜荘では毎年、地元の消防団である野依分団の皆様と合同の防災訓練を行っており、実際に野依校区で行ったコロナ禍での防災訓練について、想定していた対策と実際がどうであったかななどの貴重なお話を伺いました。他にも、消防団の皆様から消火器や屋内消火栓の取り扱いについて指導をいただくなど、職員の防災力を高め、災害時の感染症対策により注力できるよう取り組んでおります。

(白石)



▲感染症対策の職場研修

障害者支援施設 珠藻荘

9月1日は防災の日です。珠藻荘では毎年9月に大規模地震を想定した避難訓練と非常食の炊き出し訓練、発電機などの操作訓練を実施しています。これまでは、垂直避難を中心に実施していましたが、コロナ対策をより強化するため、今回は各階での水平避難を実施する予定です。利用者様には可能な限りマスクをつけていただくとともに、防災頭巾を被っていただきます。また、事前に手指の消毒も徹底し、避難時には間隔をあけて密にならないよう努め、職員にも同様の対策を施して実施に向けていく予定です。珠藻荘は、福祉避難所にもなっているため、備蓄品等の確認も怠らず、実際の有事を見据えた充実した訓練を目指していきます。

(村木)

障害者支援施設 あかね荘

あかね荘の利用者様は、年々重度高齢化しており、車椅子の方も増えてきました。一方、多動な利用者様は同じ場所に長時間とどまっていることができません。そのため、災害時、避難のための誘導や避難場所での見守りに人手が必要です。

しかし、災害は職員数の少ない休日や夜間に起こる可能性が高いと言われております。そのため、年4回行われている地震を想定した避難訓練のうち1回は夜間を想定した訓練を行っております。



傾聴ボランティア連絡協議会講師派遣

〈特別養護老人ホーム さわらび荘〉

7月22日第2回傾聴ボランティア連絡協議会において、施設職員から見た傾聴ボランティアの効果や要望についてのお話を、さわらび荘の相談員が行わせていただきました。

高齢者施設、特に特別養護老人ホームなどでは認知症の方が多く生活をされているため、認知症介護の三原則「いつも温かい愛情と笑顔で」、「決して叱らず制止せず」、「今できることをしていただく」が非常に大切であり、笑顔で相手の発言を否定せずに温かく対応していただくことが重要であるとお話をさせていただきました。ボランティアの皆様の活躍を期待しています。(渡邊憲)



地域ケア会議に参加しました

〈地域密着型サードセクター事業所 常盤〉

8月4日(木)にあいトピアで開催されました地域ケア会議では、東田校区の自治会長、民生委員、豊橋市役所、豊橋市中央包括支援センター、地域の介護事業所が参加して、地域で認知症の方と共に暮らせる優しい町づくりについて話し合いました。

地域の皆様が認知症を理解し認知症の方やご家族を支援していくために「認知症サポーター呼びかけ隊」を結成。10月23日に東田校区で啓発活動と認知症の方への声かけ訓練を実施することが決まりました。(藤原)



2号技能実習生が専門級試験を受験しました

〈特別養護老人ホーム 第三さわらび荘〉

第二さわらび荘では2020年1月から、技能や知識を日本で学び自国の発展に活かすことを目的とした技能実習生を4名受け入れています。

技能実習生の在留資格には第1号、第2号、第3号があり、日本で学び続けるためには定められた期限内に試験を受けて合格しなければなりません。第二さわらび荘の技能実習生4名は2020年10月に第2号の試験に合格しました。それから2年近くが経過し、更に上級の専門級試験を7月19日に受験しました。試験は書類と実技があり、第二さわらび荘へ試験官が来荘して実施しています。合否はまだできていませんが、この日に備え何度も模擬訓練を行った成果が出ることを祈っています。

この4名は、さわらびグループで初めて受け入れた技能実習生です。これからもさわらびグループにて技能を学んでいただきながら、一緒に働いていければと考えています。(塩見)

タスクボードの導入

〈障害者支援施設 あかね荘〉

私たち支援員が、利用者様の直接ケアに携わる時間を多く持つためには、間接的なケア(洗濯・環境美化・活動準備・記録等)を効率良く行う必要があります。

そのためには業務(タスク)を明確にし、共有(シェア)することが重要です。そこであかね荘では「タスクボード」を導入しました。あかね荘のタスクボードは、行うべき業務を行う日・行う人を書いたホワイトボードです。ボードの導入により、業務を「見える化」し、すきま時間をみつけ効率良く行うことができるようになりました。

嬉しい効果もありました。「これ、気になる!」と思った業務をタスクボードに書いておけることです。今まで気になっても、なかなか手がつけられなかった業務を明確にし、計画的に行うことができるようになりました。今後も業務改善を進め、利用者様との時間を大切にしていきたいと思えます。(高橋)

非常食セットの備蓄について

〈シャトーローズ八町〉

シャトーローズ八町では、入居者様の防災意識を高めてもらう働きかけとして、各居室に非常食セットを備蓄していただきました。今回の非常食セットは1日分でしたが、入居者様からは「これで1日分は食事に困らないね」との感想もいただき、安心された様子でした。

今後の非常食の備蓄の取り組みとしては、ローリングストック法(備蓄品を日常的に消費して、減った分だけ買い足していく方法)を活用し、常に新しいものに入れ替えながら、賞味期限切れの食品ロスも防げるように進めていきます。(加藤)



若きサポーターが誕生しました!

〈福祉村地域包括支援センター〉

7月4日(水)8日、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを目指し、豊橋南高校の1年生に認知症サポーター養成講座を開催しました。

参加された280名の生徒さんには、健康な方と認知症の方での、物忘れについての違いを、座学にて学んでいただき、認知症の方や介護する家族の気持ちも分かってもらえるように事例や寸劇で紹介しました。

アンケートでは「認知症が自分たちの身近な問題であることを知れて良かったです。」など、ご意見を沢山いただきました。(村井)



行事報告

〈障害福祉サービス事業所 明日香〉

6月よりプール支援を再開し、皆様それぞれの楽しみ方で楽しまれました。(安田)

7月4日、第二病棟6階にて七夕レクで短冊にお願い事を書きました。(原田)

7月6日、サマーフェスタを開催しました。職員による演奏会、バーベキュー風の食事、選べるケーキバイキングを食べ季節の行事を楽しみました。(岩水)

7月7日、若菜荘の自治会の方からいただいた立派な笹に子ども達が作った笹飾りをみんなで飾りました。歌やゲームをして楽しく参加する様子をビデオに収め若菜荘の方たちにプレゼントすることができました。(山本)



7月7日、七夕にカラフルなゼリやフルーチェを重ね七夕ゼリーを作りました。短冊に願い事を書いて飾りつけました。(青山)

7月13日、サービスセンターの買い物物外出に行ってきました。今後も定期的に継続していきます。(岩水)

7月19日、すみれで収穫したミニトマトを使ってピザトーストを作りました。美味しくてとても好評でした。(青山)



若菜荘の畑にあるムクゲの木に生息するカブトムシを8月1日に福祉村保育園の皆様へ、自治会の皆様よりプレゼントしました。(白石)



だれでも旅人



「旅」が心身にもたらす効果は様々であり、ストレスの軽減、運動不足の解消、創造性の向上、幸福感を感じると言われています。

〜のんびりパークへ行ってきた〜 〈ナイトZOO編〉

「さわらび会 障害者居宅介護事業所 しらがね サービス提供責任者 木下喜伸」

豊橋市ののんびりパークでは7月〜9月にかけてナイトZOOというイベントを行っています。昼間とは違った動物たちの様子をみられるとのことで行ってきました。

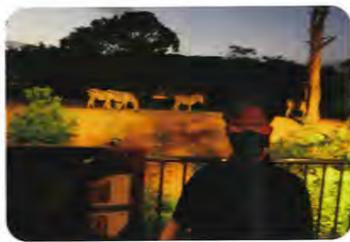
午後5時〜午後9時までの営業のため、日中に行くよりは涼しく動物を見ることが出来ます。夜行性の動物は日中よりも活動的で、野性味を感じることが出来ました。

観覧車からは綺麗な夜景が見えたり、展望塔にはプロジェクションマッピングが投影されていたりと、昼間の様子とは違った幻想的な雰囲気を楽しむことができます。

さらに、キッチンカーがたくさん並びワールドグルメフェスティバルも開催されており、夏祭り気分

で楽しむことができました。

園内では暗い中で移動のため、足元や小さな段差などが見えにくくなっています。また、沢山のお客様が来場されるので、介助者はぶつからないようにする注意が必要になります。元を照らすライトを持っていったり、明るめの服を着ていくのも良いかと思えます。



私のしらがね

障害者支援施設 珠藻荘
フイスカ イスナイン

出身 ● インドネシア北スマトラ州メダン
学歴 ● SITIUS KEBHATIHAN SURABAYA
EKALAKS KEBERAWATAN DAN PSOTERAPI
資格 ● 介護福祉士



はじめまして、私は珠藻荘のEPA介護福祉士のフイスカと申します。インドネシアの北スマトラ州のメダンから参りました。

お勧め観光スポットと食べ物をご紹介します。まずはトバ湖です。トバ湖は、インドネシアだけでなく東南アジアでも大きな自然湖であり、世界最大の火山湖です。この湖はスマトラ北部の真ん中にあります。トバ湖は約74000年前に非常に大きな火山噴火があった場所でした。興味深いのは、トバ湖の真ん中にサモシール島があることです。サモシール島の中には小さな湖があります。その名前は北スマトラの「シデイホ二湖」と「アエック ナトナン湖」です。湖の上の湖と呼ばれることもあります。

トバ湖に来るときは、お土産つまりウロスの布を買わなければなりません。ウロスは典型的なインドネシアの生地の一つであり、北スマトラでバタク族によって世代へと開発されてきました。織機を使ってウロスを布を作る方法です。織機を使ってウロスの特別な食べ物の一つ目はピカメダン、二つ目はケーメランティ、三つ

インドネシア 北スマトラ周辺の主要都市



レマン



トバ湖



ウロス布

目はレマンです。レマンはもち米にココナツミルクを混ぜ、バナナ葉を使って巻いた伝統的な食べ物です。ユニークなことは、レマンは竹の中で調理され炭火で焼かれます。綺麗な景色と美味しい食べ物、そして素敵な食生活がある私の故郷のメダンに是非、遊びにいらしてください。



第100回 さわらびキッチン 栄養士のつぶやき

明日香 栄養士 小林 由香

夏の暑さも和らぎ食欲の秋をむかえます。秋には美味しい食べ物がたくさんありますが、今回は南瓜の話をしたと思います。

国産南瓜の収穫は夏なので夏野菜のイメージがありますが、俳句の季節でも秋に分類されます。貯蔵することで甘みが増すことから、収穫から1〜2カ月過ぎたものが美味しいそうです。12月の冬至に南瓜を食べると風邪などの病気にならないと言われています。

南瓜は幅広い料理やスイーツに用いられ、栄養がたっぷりです。とりわけ南瓜に含まれるビタミン類は免疫システムを正常にしてくれるのを助けてくれ、カリウムは余分な塩分を排出する働きがあります。また、食物繊維が豊富に含まれており整腸作用があることから、お通じ改善の手助けをしてくれます。普段捨ててしまう種は漢方薬にも使われるほど栄養が詰まっている部分です。乾燥させて炒っておつまみになります。フタも食べられることから捨てる場所がない優秀食材です。

南瓜を選ぶ際には緑色が濃くすっきりとしていて形が整ったもの、カットしたものは濃いオレンジで肉厚なもの、種がふっくらと熟して膨らんだものがお勧めです。



Vol.174 relay column さわらび会のわ

福祉村病院
リハビリテーション部
加藤 智太



僕は現在、大岩町に住んでおり、その消防団に属しています。今年度は分団の長として務めています。

コロナ禍により様々なイベントが中止になっていますが、災害はやってきます。月に2日は車輻や資器材の点検、そして19日には地域の火災予防広報と予防運動を実施しています。

台風ときには、直後に道路や河川の異常がないか見回る、火事の際には出動して消火活動や周辺状況の整備、行方不明の方の捜索など、夜間や天候に関わらずに出動することもあります。

地域のコミュニティに属することで大変なこともありますが、自分たち家族を支えてくれている地域に対して、ほんの少しでも恩返しが出来たら良いなと思っています。

外国籍の方と共生できる地域づくり ～さわらび地域包括支援センター～



7月21日、県営金田住宅にて自治会や民生委員、行政職員、さわらびグループの支援センターなどの関係者が集まり「外国籍の方との共生」について意見交換を行いました。

県営金田住宅では全世帯のおよそ三割を外国人世帯が占め、言語や文化、習慣の違いなどから誤解が生じてしまうケースもあります。話し合いでは、日本人側から理解を深める努力が必要などの意見が出ました。

すぐに解決できるものではありませんが少しずつでも日本人と外国人との間の相互理解が進み、共生していける地域づくりに繋げていければと考えております。

(白井)

編集後記

新型コロナウイルス感染症第7波の夏、行動制限は無く、十分な距離が取れるところでは熱中症対策としてマスクを外すことが推奨されました。8月下旬、全国各地で高い病床利用率となり東三河でも医療者の感染で救急を含むすべての外来・入院を中止した病院、病棟閉鎖や緊急性のない手術が中止しても救急外来は死守するなど危機的な状況が続いています。基礎疾患があり直ぐにでも入院が必要な高齢者が全介助であった場合、介護職員の人員不足のため受け入れる事ができずに在宅療養となりたり救急搬送ができずそのままお亡くなりになるなど非常に厳しい状況が続いています。そんな中、8月に開催された日本最大級の野外音楽フェス「ロッキンジャパン」入場者二人に話を聞くことができました。高性能マスクDS2を着用し人前ではマスクを外さない、500cc消毒用アルコールを持ち歩き絶えず使用していたとの事、イベント後のPCR検査では陰性でした。改めてマスク着用と手指消毒は有用であると実感しました。

(谷)

- 福祉村病院
☎ (0532) 46-7511
- 福祉村老人保健施設 ジュゲム
☎ (0532) 46-7501
- 特別養護老人ホーム さわらび荘
☎ (0532) 54-3501
法人本部 豊橋市浪ノ上町7-2
- グループホーム 白珠
☎ (0532) 66-0082
- 地域密着型サービス事業所 常盤
☎ (0532) 62-3370
- 特別養護老人ホーム 第二さわらび荘
ケアハウス カサ デ ローザ
☎ (0532) 37-1209
- 特別養護老人ホーム カサ ブランカ
☎ (0532) 69-1701
- 地域密着型サービス事業所 カサ デヴェルデ
☎ (0532) 23-5552
- 特別養護老人ホーム 天白
☎ (0532) 48-1113
- グループホーム フジ
☎ (0532) 54-5477
- 軽費老人ホーム 若菜荘
☎ (0532) 48-1138

- 障害者支援施設 珠藻荘
☎ (0532) 47-1050
- 障害者支援施設 あかね荘
☎ (0532) 48-2825
- 障害福祉サービス事業所 明日香
☎ (0532) 46-6579
- 福祉村障害福祉サービス事業所 しろがね
☎ (0532) 48-1032
- あかね荘 障害者生活支援センター
☎ (0532) 38-9090
- サービス付き高齢者向け住宅 シャトーローズ八町
☎ (0532) 52-0005
- 介護付き有料老人ホーム フェリス福祉村
☎ (0532) 47-2202
- 障害福祉サービス事業所 すみれ
☎ (0532) 38-5077
- 共同生活援助事業所 すみれホーム
☎ (0532) 29-8180



医療法人・社会福祉法人
さわらび会
理事長 山本孝之